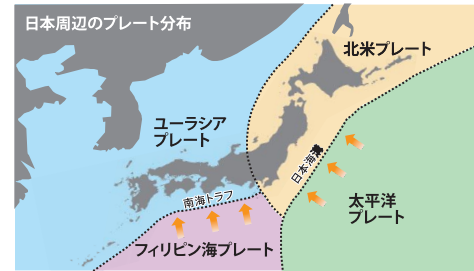




地震発生のメカニズム

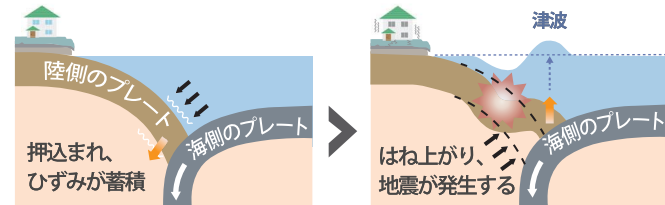
日本列島は、太平洋、フィリピン海、北アメリカ、ユーラシアの4つのプレートに囲まれた世界の中でもめずらしいプレート密集地帯です。そのため、世界の面積の1%にも満たない国ですが、世界の約10%の地震が発生しており、世界有数の地震国といえます。

地震は地下で起きる岩盤の「ずれ」により発生する現象で、海溝型地震と内陸直下型地震に分類されます。四国地方では南海トラフ巨大地震(海溝型地震)や中央構造線による直下型地震などの発生が懸念されています。地震は、家屋の倒壊をはじめ、津波、土砂災害、火災などが発生する可能性があり、複合災害となる場合があります。



海溝型地震

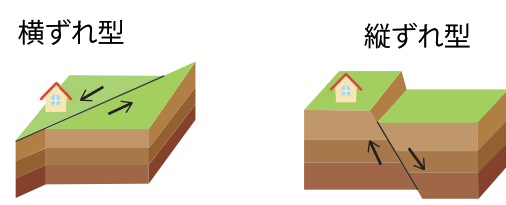
関東大震災、十勝沖地震、三陸沖地震、東日本大震災など



海側プレートが陸側プレートの下に潜り込むことで、境界にひずみエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもとに戻る力ではね上がり、地震が起こります。

内陸直下型地震

阪神・淡路大震災、新潟中越沖地震、芸予地震など

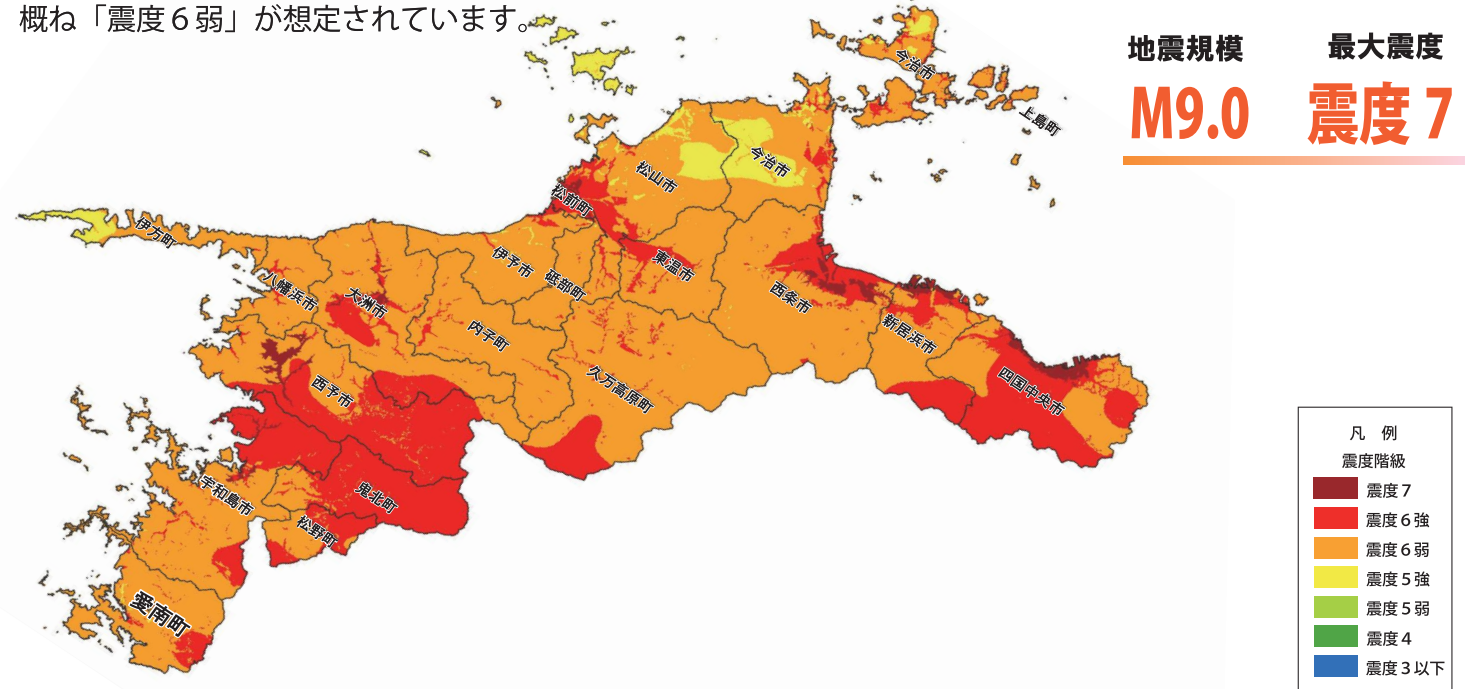


地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(活断層面)を境にずれ動き、直下で地震が起こります。

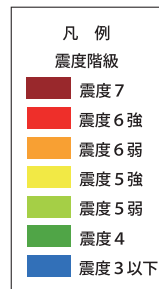
南海トラフ巨大地震の震度

愛媛県地震被害想定調査結果(最終報告:2013年12月26日)によると、愛媛県における南海トラフ巨大地震による想定について、震度分布をみると、県内全域で「震度6弱以上」となり、「震度7」の市町は13市町と想定されています。

愛南町では、御荘地区の一部で「震度7」の揺れが発生する可能性があることが示され、その他の地域でも概ね「震度6弱」が想定されています。



地震規模 **M9.0** 最大震度 **震度7**



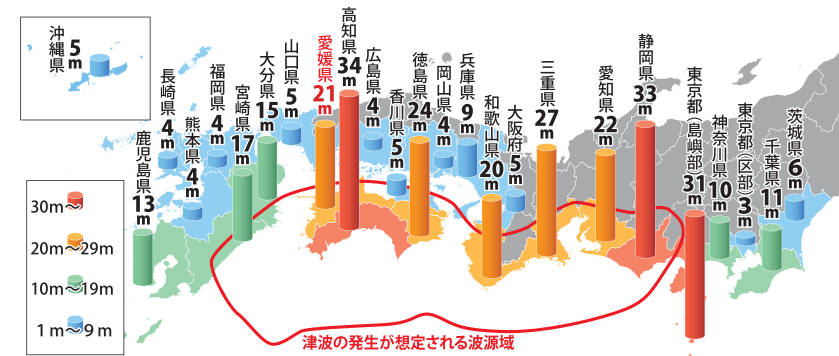
南海トラフの巨大地震の震度分布(5ケースの重ね合わせ) (資料:愛媛県地震被害想定調査結果)

南海トラフ巨大地震による津波の想定

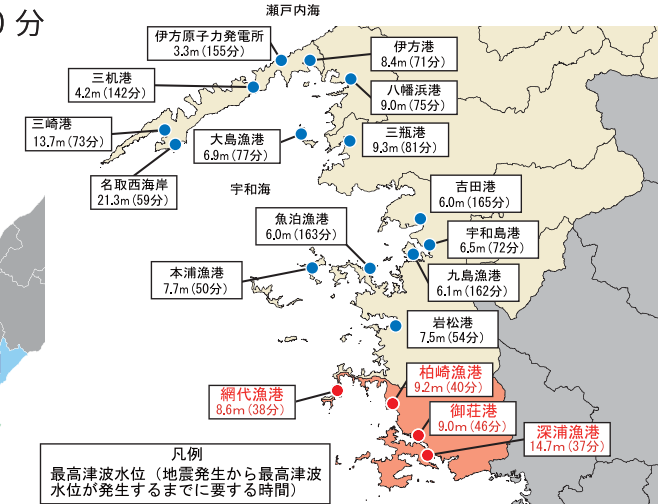
南海トラフ巨大地震は、太平洋側沿岸の幅広い地域に津波被害を引き起こすことが想定されています。中央防災会議が公表した最高津波水位予測では、高知県の34mをはじめとして、愛媛県においては21mの津波が来襲する可能性が示されています。

愛媛県地震被害想定調査結果(最終報告:2013年12月26日)によると、南海トラフ巨大地震における津波の高さは、宇和海沿岸で「6~20m程度」、瀬戸内海側で「3~4m程度」の津波が想定されています。

愛南町内の各港においても、「8~15m程度」の津波が40分程度で到達すると想定されています。



最高津波水位予測図(資料:中央防災会議)



愛南町周辺の最高津波水位予測図(南海トラフの最大クラスの津波) (資料:愛媛県地震被害想定調査結果)

南海トラフ巨大地震による被害想定と液状化の危険性

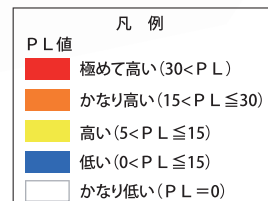
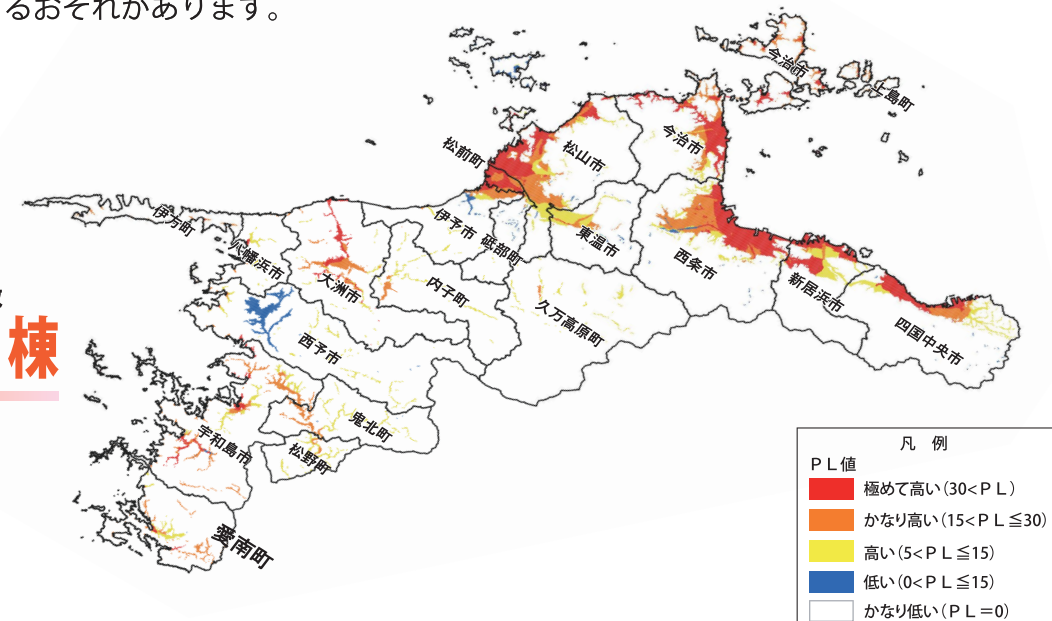
愛媛県地震被害想定調査結果(最終報告:2013年12月26日)によると、南海トラフ巨大地震が発生した際に愛南町で想定される被害として、人的被害(冬深夜)は死者数1,300人、建物被害(冬18時)は全壊棟数は4,360棟、半壊棟数は2,824棟が想定されます。

愛媛県における南海トラフ巨大地震による想定について、液状化危険度分布をみると、「液状化の危険性が極めて高い」市町は16市町と想定されています。

愛南町では、僧都川と惣川の河口部で「液状化の危険性が極めて高い」区域があり、地盤の陥没やマンホールの浮き上がりなどが発生するおそれがあります。

人的被害(冬深夜)
死者数 **1,300人**

建物被害(冬18時)
全壊棟数 **4,360棟** 半壊棟数 **2,824棟**



南海トラフの巨大地震の液状化危険度(PL値)分布(5ケースの重ね合わせ) (資料:愛媛県地震被害想定調査結果)

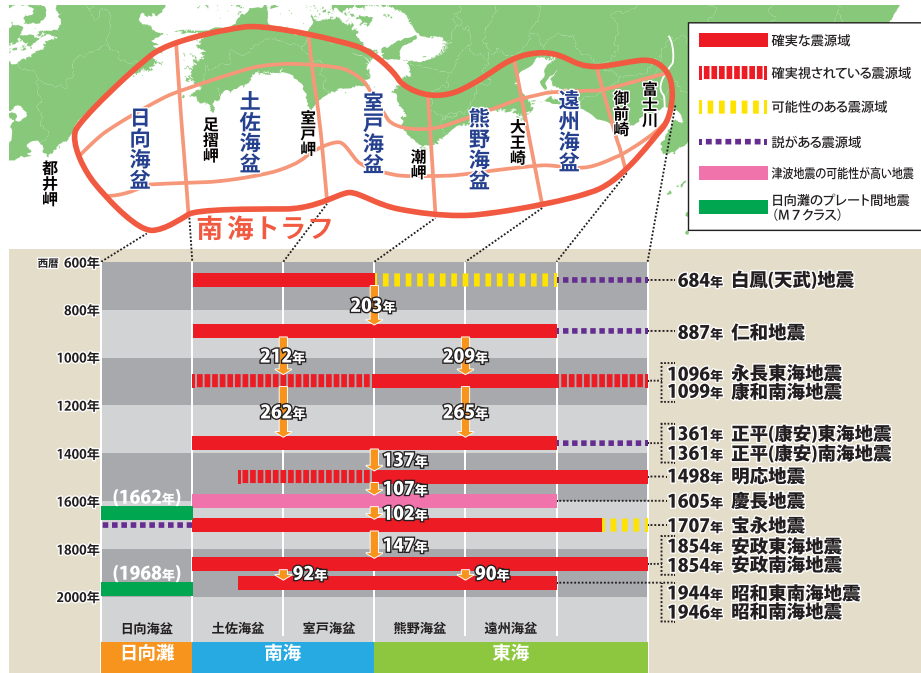


過去の南海トラフ地震の発生状況

歴史記録によると、過去に南海トラフを震源域とする大地震は、100～200年ごとに繰り返し発生しており、684年の白鳳地震から現在までに少なくとも9回ほど発生していると考えられています。

次に生じる地震が、いつ、どの範囲でどのような規模で生じるかを予測することは困難ですが、直近に発生した1946年の昭和南海地震から75年が経過しており、南海トラフ全域での地震の発生確率は30年以内に70～80%といわれています。

南海トラフの巨大地震は必ず発生すると認識し、様々な備えに取り組んでいくことが必要といえます。



(資料：地震調査研究推進本部)

地震が発生したときに備えて

●家具等の固定・転倒防止

タンス、食器棚、本棚、冷蔵庫などは、L字金具やつっぱり棒で固定しましょう。



●ガラスの飛散防止

窓ガラスや棚などのガラスには、飛散防止フィルムを貼りましょう。



●通路の確保

部屋の入口付近には物を置かないようにしましょう。

●木造住宅の耐震化 / ブロック塀の安全対策

地震発生後において、揺れなどによる倒壊を防ぎ、普段どおりの生活を送るためには、住宅の耐震化が重要です。愛南町では、木造住宅の耐震診断及び耐震改修に対する補助を行っていますので、該当する方は活用をご検討ください。



補助概要 (町 HP)

●空き家対策

空き家は、地震時に倒壊するなどのおそれがあります。愛南町では、管理不完全となった不良住宅または空き建築物の除却に対する補助を行っていますので、該当する方は活用をご検討ください。



補助概要 (町 HP)

<https://www.town.ainan.ehime.jp/kurashi/tetsuduki/anshin/bosai>

地震発生時の行動

緊急地震速報により、揺れが発生する前に情報を入手できる場合があります。

地震発生

■緊急地震速報

緊急地震速報は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、テレビやラジオ、携帯電話等を通じてお知らせするものです。

揺れの発生

南海トラフの巨大地震では2～3分の揺れが続くといわれています。

まずは身を守る

■身の安全の確保

- クッションや座布団などで頭を保護する。
- 丈夫な机の下で身を守る。
- 倒れてくる家具や落下物に注意。

■素早く火の始末

- コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。

■非常出口の確保

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保。

揺れがおさまったら ただちに

津波やがけ崩れ等の危険が予想される場所にいる場合はすぐに避難します。

余震に注意しながら 素早く行動

■火元の確認

- 火元を確認し、ガスの元栓、電気のブレーカーを落とす。

■靴を履く

- 底が厚く丈夫で、履きなれた靴を履き、ガラスの破片や散乱物から足を守る。

■家族の安全確認

- 倒れた家具の下敷きになっていないか確認。

■火災時には協力して初期消火

- 津波による浸水のおそれがない地域では、近隣で協力して初期消火。



避難場所では

避難後は助け合いの心で行動します。

■引き続き余震に注意

- 余震の発生が危惧されることから、倒壊した家屋などの危険な場所に近寄らない。

■自主防災組織を中心に活動する

- 集団行動のルールを守り、助け合いの心で行動する。

みんなで協力

地震による津波浸水シミュレーションについて

愛南町では、愛媛県が平成25年6月に公表した「愛媛県地震被害想定調査(第一次報告)」に基づき、町内沿岸部6か所(柏地区、御荘地区、岩水・垣内地区、久良地区、船越地区、福浦地区)の津波浸水の様子をシミュレーション映像として作成しました。愛媛県の被害想定では、地震発生後に早期避難をすることにより、人的被害が約2割に減少するという試算もあり、速やかに避難することが大幅な減災につながるものと考えられます。

津波が押し寄せるイメージを実際にご覧になって、津波災害に対応した備えを日頃から準備しましょう。

※愛南町津波浸水シミュレーションは、愛南町に特に大きな津波被害をもたらすと想定される「南海トラフ巨大地震」を基に作成しています。この想定は、津波による災害の発生や被害の範囲を決定するものではないことにご注意ください。



地震による津波浸水シミュレーション (柏地区)

津波浸水シミュレーション (町 HP)

<https://www.town.ainan.ehime.jp/kurashi/tetsuduki/anshin/bosai>





南海トラフ地震臨時情報が発表される異常な現象と発表の流れ

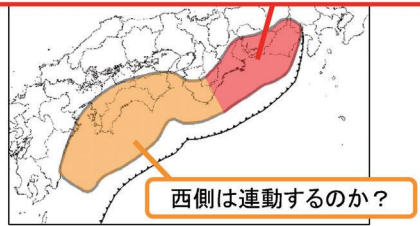
南海トラフ地震臨時情報（以降は臨時情報と呼ぶ）は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、想定震源域内で大規模地震など異常な現象が観測された場合に、気象庁より発表されます。

臨時情報が発表される異常な現象には、「半割れケース」、「一部割れケース」、「ゆっくりすべりケース」の3通りがあります。これらの3つの異常な現象に対する評価により、発表される情報が異なります。

まず、発表される情報を把握しましょう。

●半割れケース

南海トラフ東側で大規模地震(M8クラス)が発生

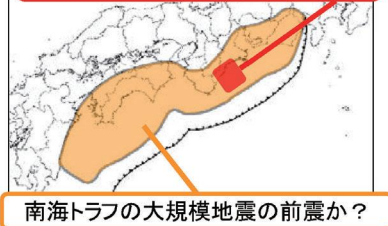


西側は連動するの？

南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてモーメントマグニチュード 8.0 以上の地震が発生した場合

●一部割れケース

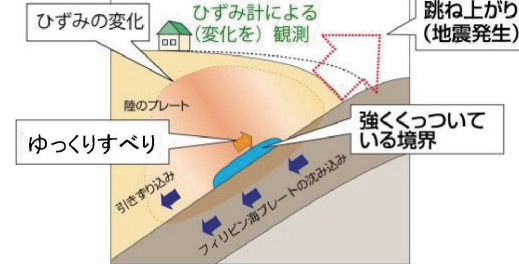
南海トラフで地震(M7クラス)が発生



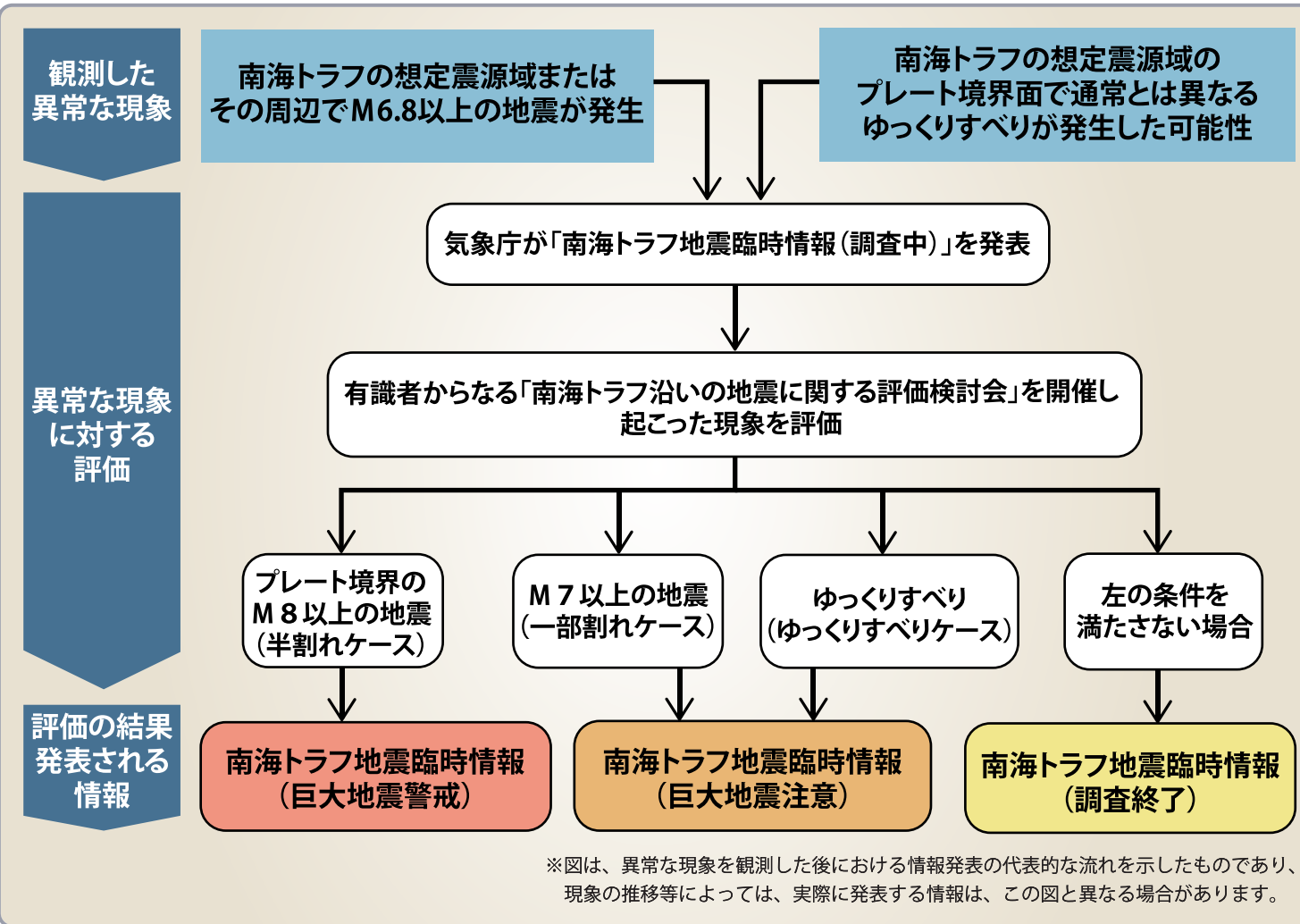
南海トラフの大規模地震の前震か？

南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界においてモーメントマグニチュード 7.0 以上 8.0 未満の地震が発生した場合

●ゆっくりすべりケース



ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



(資料：内閣府「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応ガイドライン」より)

臨時情報の種別

臨時情報は、情報を受けとる住民の皆さまが防災対応をイメージし適切に実施できるよう、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」などのキーワードを付けて発表されます。

キーワード及び条件を把握していただき、日頃から防災対応に備えましょう。

キーワード	各キーワードが付記される条件
調査中	●南海トラフの想定震源域及びその周辺でマグニチュード 6.8 以上の地震が発生した場合または、通常とは異なるゆっくりすべりが発生した可能性がある場合に、臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合
巨大地震警戒	●想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価された場合
巨大地震注意	●想定震源域及びその周辺において、M7.0 以上の地震が発生したと評価された場合 ●想定震源域内のプレート境界において、通常とは異なるゆっくりすべりが発生したと評価された場合
調査終了	●(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価された場合

(資料：内閣府「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応ガイドライン」より)

臨時情報が発表された場合の各地域の防災対応

臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合、愛南町は災害対策本部を設置し、国や県の指示により、右記の地域に避難情報（避難指示または高齢者等避難）を発令します。

避難情報が発表された場合は、速やかな避難をお願いいたします。その他の地域の方は、日頃からの地震への備えの再確認やできるだけ安全な防災行動をとり、地震の発生に注意しましょう。

また、臨時情報が発表された際には、愛南町の呼びかけに従い、巨大地震の発生に備えて以下のような防災対応をとってください。

■住民事前避難対象地域（避難指示発令区域）

- 内海地域 網代、魚神山、油袋、家串、平簪
- 城辺地域 脇本、中玉、大浜、柿の浦、敦盛、岩水、垣内、東浜、中組、西浜、鼻前、鮪越、古月、日土、大寿浦、真浦、西真浦、新浦
- 一本松地域 満倉
- 西海地域 越田、弓立、小浦、櫻月、船越、久家、下久家、樽見、大成川、小成川、福浦、麦ヶ浦、武者泊、外泊、中泊、内泊

■高齢者等事前避難対象地域（高齢者等避難発令区域）

- 内海地域 須ノ川、柏、柏崎
- 御荘地域 馬瀬の一部（僧都川と蓮乗寺川の間にある地域）、防城成川、赤水、高畑、尻貝、奥の谷、中の谷、高手、灘前、左右水、猿鳴

※今後、発令する避難情報も含めて見直しをする可能性がありますので、最新情報は町 HP を参照してください。

事前避難対象地域（町 HP）

<https://www.town.ainan.ehime.jp/kurashi/tetsuduki/anshin/bosai>



■日頃からの地震への備えの再確認の例

- ・避難場所や避難経路の確認
- ・家族との安否確認手段の確認
- ・家具等の固定の確認
- ・非常持出品の確認 など

■できるだけ安全な防災行動の例

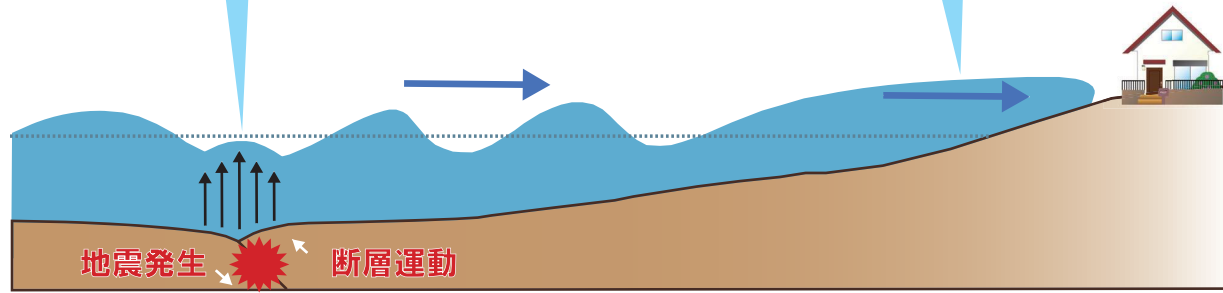
- ・高い所に物を置かない
- ・屋内のできるだけ安全な場所で生活
- ・すぐに避難できる準備（非常持出袋等）
- ・危険なところにできるだけ近づかない など



津波発生メカニズム

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底・海面が隆起もしくは沈降します。これに伴って、海面が変動し、大きな波となって四方に広がっていくものが津波です。
地震および津波が発生した場合は、津波一時避難場所もしくは、安全な高い場所に避難が必要です。

- ①地震により海底・海面が隆起・沈降 → ②海面変動が大きな波となり四方八方へ伝播 → 海岸へ来襲



津波は 繰り返し襲ってきます

3波 2波 1波

到達する津波の高さは、第1波でなく、第2波以降の波が最大となる場合があります。津波警報が解除され安全が確認されるまで、警戒が必要です。

津波のスピードは速いです

津波のスピードは速く、沖合いではジェット機に匹敵する速さです。陸に近づくと速度は遅くなりますが、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。

時速800km 時速36km

5,000m 10m

津波警報・注意報の種類

地震が発生してから約3分を目標に、「大津波警報(特別警報)」、「津波警報」、「津波注意報」が発表され、その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」などの情報が発表されます。予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表されますが、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、地震の規模をすぐには把握できないため、「巨大」や「高い」という言葉を使用して非常事態であることが伝えられます。

	発表される津波の高さ		想定される被害	とるべき行動
	数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報 (特別警報)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれます。 	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!
津波注意報	1m (0.2m<予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人が速い流れに巻き込まれます。小型船舶が転覆します。	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波が発生したときに備えて

強い地震や長い時間の揺れを感じたら

大津波警報(特別警報)や津波警報が発表されたら
(揺れを感じない場合も)

津波注意報が発表されたら
(揺れを感じない場合も)

『すぐに避難』

- 沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や津波避難ビル、指定の避難場所などの安全な場所へ避難する。
- ここなら安心と思わず、より高い場所をめざして避難する。
- 津波災害警戒区域の住民は直ちに避難する。

『いつでも逃げることでできる準備を』

- 海水浴や磯釣りなどは危険なので中止し、海岸から離れ安全な場所へ移動する。
- 津波災害警戒区域の住民はいつでも避難できるように準備する。

その後は

- 正しい情報をラジオ・テレビなどで入手する。
- 津波は繰り返し襲ってくるため、警報・注意報が解除されるまで海岸には近づかない。



避難のポイント

「遠く」よりも「高く」へ

津波が到達する前に、高台に避難しましょう。すでに浸水が始まり、高台に避難する時間的余裕がないときは、近くの頑丈な高いビルに逃げることを考えましょう。指定緊急避難場所・指定避難所を日頃から確認しておきましょう。

津波の特性を理解する

津波は繰り返し襲ってきて、第1波よりも第2波以降の方が大きくなる可能性があります。1回目の津波で安心せずに、警報・注意報が解除されるまで海岸には近づかないようにしましょう。

また、津波の前触れとして、必ず引き潮があるとは限りません。大規模な地震のあとには、直ちに津波が来るものとして、すぐに避難しましょう。

地震の揺れの大きさと判断しない

地震の揺れが小さい時でも津波が起きるケースがあります。弱い揺れでも長い時間揺れを感じたとき、津波警報が発表されたときなどは、直ちに避難しましょう。

津波災害警戒区域の指定について

愛媛県は、令和2年3月に警戒避難体制を特に整備すべき区域として、津波災害警戒区域を指定しました。津波災害警戒区域の指定により、基準水位(津波が建物等に衝突した際のせり上がり考慮した浸水する深さ)が示され、津波避難対策の取組が強化されます。

愛南町が以前作成した総合防災マップでは、津波浸水想定区域の分布を示していましたが、今回の総合防災マップでは津波災害警戒区域に基づく基準水位を示しています。実際に津波の影響が生じる可能性のある高さを確認し、あなたのお住まいやその周辺の地域について津波の危険性を把握しましょう。



風水害について

風や雨などがもたらす風水害の中には、水害（洪水、高潮）、土砂災害、風害などがあり、これらの災害の主な要因となるのが台風や大雨です。

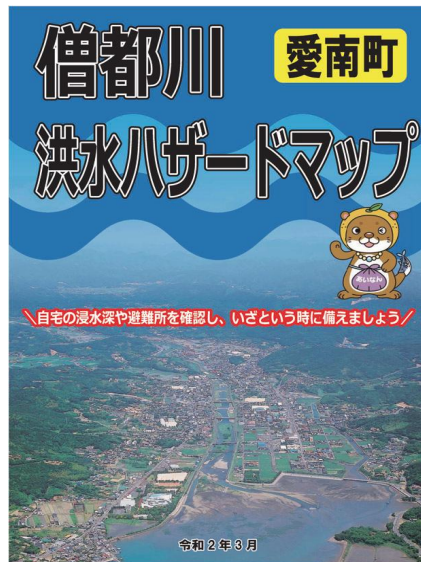
台風は、熱帯性低気圧のひとつで、日本へは7月から9月を中心に接近し、強い風や大雨をもたらします。また、大雨の中には狭い地域で短時間のうちに雨が集中して降る集中豪雨と呼ばれる現象があります。

これら台風や集中豪雨が発生すると、河川の氾濫や、がけ崩れ・地すべりなどの被害が生じるため、造成地、がけ付近では十分な注意が必要です。

愛南町では、総合防災マップとあわせて、洪水やため池による浸水被害を確認していただくために、「僧都川洪水ハザードマップ」や「愛南町ため池ハザードマップ」の整備を進めています。浸水想定区域などについてはそれぞれのハザードマップで確認し、日頃から洪水に対する備えに取り組みましょう。

左：僧都川洪水ハザードマップ（町HP）
右：愛南町ため池ハザードマップ（町HP）

<https://www.town.ainan.ehime.jp/kurashi/tetsuduki/anshin/bosai>



平成30年7月豪雨（前線及び台風第7号による大雨等）

平成30年7月豪雨では、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、各地で甚大な被害が発生しました。

愛南町でも、数十年に一度の重大な災害が予想されるという「大雨特別警報」が発表され、幸い人的被害はなかったものの、住家の浸水被害、土砂災害、農林被害などが発生しました。

浸水想定区域や土砂災害警戒区域などを日頃から確認しておくことが重要です。



平成30年7月豪雨災害（満倉地区）

風水害が発生したときに備えて

事前の点検・補修

- 窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要ならば外から板を打ち付けて補強しましょう。
- 側溝や排水口は掃除して水はけを良くしましょう。
- 風で飛ばされそうな物、たとえばゴミ箱などは飛ばされないように固定しましょう。



避難の準備

- 学校や公民館など、避難場所・避難所として指定されている場所への避難経路を確認しましょう。
- 非常持出品を用意しましょう。



正確な情報の把握

- ラジオやテレビなどで気象情報には注意しましょう。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞きましょう。



避難のポイント

安全な場所まで立退き避難

近くの高い建物（2階以上）に早めに避難しましょう。

浸水している際の避難は足元に注意して避難

浸水している場所を歩行する際は、運動靴を履き、側溝、水路、マンホールなどに注意しましょう。

地下やアンダーパスに注意し避難

大雨により地下は浸水する恐れがあるほか、水圧で閉じこめられたりする場合があるので、地下からは早めに避難しましょう。
道路などの下を通過する場合は、路面が低くなっているため、雨水がたまりやすい構造となっていますので、自動車でも通過・侵入しないようにしましょう。



土砂災害の種類とその特徴

がけ崩れ、土石流、地すべりなどの土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまうおそろしい災害です。特に、土砂災害警戒区域などにお住まいの方は、前兆現象などに充分注意し、早めに避難してください。



雨水の浸透や地震等により、前ぶれがあまりなく、斜面が突然崩れ落ちるのが、がけ崩れです。



長雨や大雨等により、山腹の川底の石や土砂が一気に下流に流されるのが土石流です。



地下水が粘土のような滑りやすい層の上にたまり、その層から上の地面がゆっくり動き出すのが地すべりです。

こんな前兆現象に注意！

- がけにひび割れができる。
- 地下水や湧き水が止まる。
- 小石がパラパラと落ちてくる。
- がけから水がわき出る。
- 山鳴りがする。
- 急に川の水が濁り、流木が混ざる。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 地面がひび割れたり陥没する。
- 家や擁壁に亀裂が入る。
- がけや斜面から水が噴き出す。
- 井戸や沢の水が濁る。

土砂災害（特別）警戒区域の指定について

愛媛県が土砂災害防止法に基づき、土砂災害への注意が必要な区域として土砂災害（特別）警戒区域を指定しています。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン） 土砂災害のおそれがある区域

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

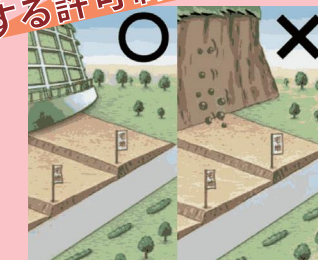
建物が破壊され、人命に大きな被害が生ずるおそれのある区域

建築物の構造規制



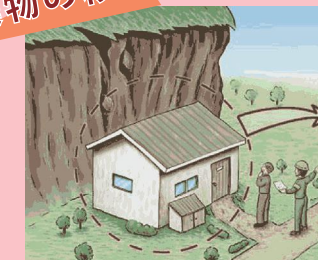
急傾斜地の崩壊などに伴う土石等が建築物に及ぼす力に対して、建築物の構造が基準を満たしているか建築確認を受ける必要があります。

特定の開発行為に対する許可制



住宅宅地分譲や要配慮者利用施設の建築のための開発行為を行う場合、土砂災害防止に向けた対策工事が必要です。対策工事が技術基準に従ったものに限って開発行為は許可されます。

建築物の移転



急傾斜地の崩壊などが発生した場合にその居住者などの生命や身体に著しい危害が生ずるおそれのある建築物所有者等に対し、移転などの勧告が図られます。

避難のポイント

安全な場所まで立退き避難

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）及び土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に住んでいる方は、土砂災害が発生する前に、早期避難を行いましょう。土砂災害警戒情報の発表は避難の合図となります。



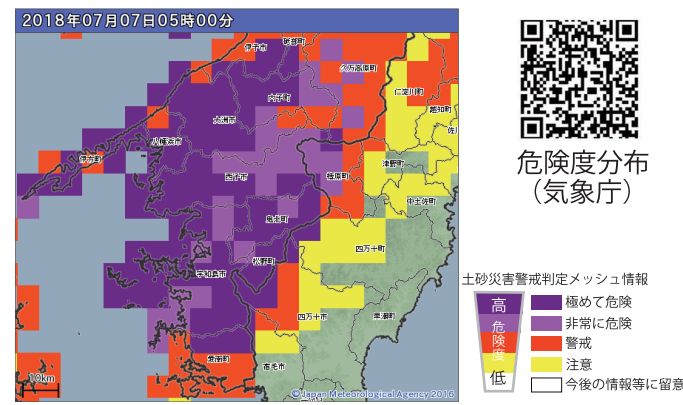
土砂災害警戒情報とは

大雨警報発表後、大雨により土砂災害が発生する危険性が高まったときに、愛媛県と松山地方気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報が発表された時は、愛南町では、危険度が高まった地域に対して、避難指示などを発令します。

命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状態ですので、直ちに避難してください。なお、危険度が高まっている詳細な範囲については、気象庁が公表している土砂災害の危険度分布で確認することができます。

<http://www.jma.go.jp/bosai/risk/> (資料：気象庁HP「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」より)



危険度分布 (気象庁)

警戒レベルとは

住民の皆さんが、災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動がとれるようにするため、5段階の「警戒レベル」を用いて伝えられる避難情報や防災気象情報などの防災情報です。

愛南町から発令される避難情報に応じた行動をとるとともに、発令されていない場合においても、気象情報や周辺地域の情報を踏まえて早めに避難しましょう。

警戒レベル	防災気象情報※	町が発令する避難情報等	住民がとるべき行動
5	・大雨特別警報 ・氾濫発生情報	緊急安全確保	指定緊急避難場所等への立退き避難がかえって危険である場合、緊急安全確保する。
4	・土砂災害警戒情報 ・氾濫危険情報 ・高潮特別警報、高潮警報 ・危険度分布「非常に危険(うす紫)」	避難指示	危険な場所から全員避難(立退き避難または屋内安全確保)する。
3	・大雨警報(土砂災害)・洪水警報 ・氾濫警戒情報 ・危険度分布「警戒(赤)」	高齢者等避難	高齢者等は危険な場所から避難(立退き避難または屋内安全確保)する。その他の人は、立退き避難の準備や、必要に応じて自主的に避難する。
2	・大雨注意報 ・氾濫注意情報 ・危険度分布「注意(黄)」	大雨・洪水・高潮注意報等	災害が想定されている区域や避難先、避難経路、避難のタイミング等を確認する。
1	・早期注意情報	早期注意情報	最新の気象情報に留意するなど、災害への心構えを高める。

※この防災気象情報が発表されたとしても、必ずしも同じタイミングで、同じレベルの避難情報を発令するとは限りません。

記録的短時間大雨情報とは

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析した時に発表される情報です。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。

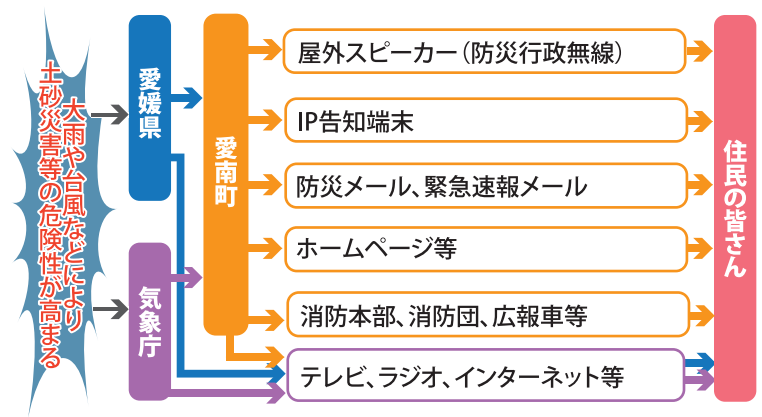
土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、災害が想定される区域にお住まいの方は、発令された避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。

記録的短時間大雨情報の発表基準
1時間雨量 100mm(愛媛県)

災害に関する情報の入手方法

気象情報や避難に関する情報は、下記に示すようなさまざまな手段で住民の皆さんに伝えられます。スマホやテレビなどさまざまな手段を用いて、気象情報や避難情報を積極的に入手しましょう。

また、災害に関する情報の入手方法などについて不明な点がありましたら、愛南町防災対策課までお問い合わせください。



■川の防災情報(国土交通省)
水位観測所地点の水位を断面で見ることができたり、1～3時間後の予想水位も見ることができます。

■えひめ河川メール(愛媛県)
事前登録すれば水位や降雨量が基準値を超過した場合などのお知らせメールが届きます。

■えひめの防災・危機管理(愛媛県)
緊急情報や避難指示等の発令状況が確認できます。また、土砂災害や地震情報も確認できます。

■地上デジタル放送(dボタン)
NHKデータ放送(dボタン)で避難指示等の発令や避難所の開設状況などの避難情報が確認できます。

非常持出品・備蓄品の準備とチェック

地震などの災害が発生すると、普段どおりの生活ができなくなることも考えられます。非常持出品・備蓄品のリストを参考に、飲料水や食料などは最低7日分、うち3日分は非常持出しとして家族構成に合わせて準備しましょう。また、愛南町では、防災グッズの購入に対する補助を行っていますので、積極的に活用しましょう。



補助概要 (町HP)

非常持出品(例) 事前に準備できているかチェック☑しましょう。定期的に中身を点検しましょう。

非常用食品など	救急医療品	懐中電灯	携帯ラジオ
<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 非常用食品 <input type="checkbox"/> アルファ化米・缶詰・レトルト食品など	<input type="checkbox"/> 紙皿 <input type="checkbox"/> 紙コップ <input type="checkbox"/> 救急セット(絆創膏、消毒液など) <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> マスク(感染対策衛生用品)	<input type="checkbox"/> 懐中電灯(手動充電式が便利) <input type="checkbox"/> 電池	<input type="checkbox"/> ラジオ(手動充電式が便利) <input type="checkbox"/> 電池
貴重品	その他		
<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 車や家の鍵	<input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 携帯電話など	<input type="checkbox"/> 衣類(下着・上着など) <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 笛やブザー	<input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> アルミ製保温シート <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> カップ <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> ビニール袋など

非常備蓄品(例) 普段から多めに食料や日用品を買っておき、使った分だけ買い足していくことで、常に一定量の備蓄ができます。

飲料水	非常食品	燃料	その他
<input type="checkbox"/> 飲料水としてペットボトル(1日3リットルが目安)	<input type="checkbox"/> 缶詰・レトルト食品などそのまま食べられるものや簡単に調理できるもの	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> ガスボンベ <input type="checkbox"/> 固形燃料など	<input type="checkbox"/> 生活用水 <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋・洗面用具・衣類 <input type="checkbox"/> ドライシャンプーなど <input type="checkbox"/> 調理器具(なべ・やかんなど) <input type="checkbox"/> バケツ・各種アウトドア用品など



マイ・タイムライン（防災行動計画）を作成しましょう！

マイ・タイムラインは、一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風の接近や大雨などが発生した際に、避難の流れや準備を理解し、把握しておくとともに、自分の行動を時系列で整理する計画表です。

災害は、「いつ」「どこで」発生するかわからないため、「家族の一人ひとりが」「何をするのか」をあらかじめ決めておき、命を最優先にした行動を決めておきましょう。

ぜひ、国土交通省にて公表されているマイ・タイムラインの検討ガイド等を参考にしつつ、以下の手順に沿ってマイ・タイムラインを作成しましょう。

①総合防災マップや各種ハザードマップで、危険な箇所や避難所等を確認しましょう。



②警戒レベル、避難情報、気象情報から避難のタイミングを考えましょう。



③避難開始までの行動を考えましょう。

国土交通省にて公表されているマイ・タイムラインの検討ガイド等では、マイ・タイムラインの完成イメージや作成の流れが確認できますので参考にしましょう。
<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline>



まず、わたしの住まい、地域の災害リスクを記入しましょう。

■洪水の危険性

あり なし

浸水深：_____ m

※洪水の浸水想定は、「僧都川洪水ハザードマップ」で確認しましょう。



<https://www.town.ainan.ehime.jp/kurashi/tetsuduki/anshin/bosai>

■土砂災害の危険性

あり なし

警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
避難情報など	早期注意情報	大雨注意報、洪水注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	河川の情報	氾濫注意情報	氾濫警戒情報/洪水警報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
	土砂災害の情報	—	大雨警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報(土砂災害)
警戒レベル別の行動指標	防災気象情報等に留意し、災害への心構えを高める	災害が想定されている区域や避難先、避難経路の確認	高齢者等は危険な場所から避難/防災気象情報より避難の準備や避難を判断	危険な場所から全員避難	命を守る最善の行動をとる
記入する内容の例	<ul style="list-style-type: none"> ●気象情報をテレビ、ラジオ、携帯電話などで確認 ●避難に備えて非常時持出品の準備 ☞何を準備する? ●関係する人に避難の相談など ☞誰に相談する? 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅の災害の危険性や避難所の確認 ☞どの災害?どの避難所?どの避難経路? ●家族との連絡、行動予定の確認 ☞連絡手段は? ●避難への影響に関する情報の確認(川の水位や通行止め)など 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者は避難の開始・完了 ☞家族の誰が、どこに避難する? ●テレビや携帯電話等で洪水予報等の確認 ●携帯電話の充電、非常持出品等の準備など ☞何を準備する? 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難の開始・完了(災害が発生した際の被害を確認した上で、避難所など安全な場所へ避難) 	<ul style="list-style-type: none"> ●安全な場所の確認(災害が発生した際の被害を確認した上で、自宅の2階以上の避難やその他安全な場所へ避難)
<p>記入する内容の例を参考に、マイ・タイムラインを作成しましょう。</p> <p>(記入する内容の例より具体的に、いつどこで、家族一人ひとりが何をするのかを意識しましょう。)</p>	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●